

2021年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書



江澤伸哉と復調 上江洲葵要が総合(インター)ワンツーフィニッシュ! ナショナルクラスでも中村煌が2位表彰台(総合5位)を獲得!

7月4日(日) 公式予選/10:20~10:30 ©天候・路面:Rain/Wet

#56 小田喜阿門・予選3位 #18 江澤伸哉・予選5位 #6 堀井颯大・予選7位
#64 中村煌・予選8位 #52 上江洲葵要・予選12位 #17 永山陽菜・予選17位

鈴鹿選手権サンデーロードレースシリーズ第3戦が東コースを舞台に開催された。J-GP3クラスに参戦するSRS-Motoアドバンス勢は、インタークラスの江澤伸哉がこれまでの2戦を制しており、ナショナルクラスの堀井颯大もクラス2連勝と絶好調。彼らの走りに、観客はもちろん、ライバル勢からも注目が集まった。

午前9時20分、弱い雨の中10分間の予選がスタート。開始直後より小田喜阿門が積極的に前に出て後続を引っ張り、中村煌、上江洲葵要が集団の後方からクリアラップを狙う。好調の堀井、江澤はバトルを避けるように集団からやや遅れてコースイン。今回はサンデー2戦目となる永山陽菜は3周目の1コーナーでスリップダウン。マシンがグラベルに埋まったため赤旗が提示されたが、幸い永山にケガはなかった。走行再開後は堀井、続いて江澤が真っ先にコースに飛び出して積極的な走りを見せる。やや間隔を開けて小田喜と中村、さらに後方から上江洲がベストタイムを狙う。終始積極的な走りを展開した小田喜は最後のラップで59秒660を記録して予選3位のグリッドを獲得。江澤は5番手につけて、堀井7位、中村が8位で続いた。上江洲は12位で4列目から上位を狙う。永山は転倒直前のタイムで最後尾21番手からのスタートとなった。

7月4日(日) 決勝レース(7周+7周)©天候・路面:Cloudy/Dry

#18 江澤伸哉・総合1位/インター1位/NSFチャレンジ1位
#52 上江洲葵要・総合2位/インター2位/NSFチャレンジ2位
#64 中村煌・総合5位/ナショナル2位/NSFチャレンジ3位
#17 永山陽菜・総合15位/ナショナル9位/NSFチャレンジ8位
#6 堀井颯大・転倒リタイヤ
#56 小田喜阿門・転倒リタイヤ

決勝レースでは、予選3位の小田喜が抜群のクラッチミートで1コーナーに向けて猛然と加速してホールショットを奪う。だが2周目に入ると2位の堀井が小田喜をかわしてトップを奪取。スタートでやや遅れた江澤も猛然と追い上げ、2周目のS字で小田喜をかわして2位に浮上する。だがこの際の接触で小田喜が転倒し、そのままレースを終えることになった。江澤は堀井をもパスしてトップに躍り出ると、ハイペースをキープして後続との距離を開いていく。その後方では上江洲が中村、堀井を激しくチャージし、4周目を終えた時点で上江洲は2位にポジションをアップ。レース中盤の7周目の最終コーナー、3位を走る堀井が単独で転倒。マシンがコースサイドに残ったことにより赤旗中断、全車通過の7周目の順位をグリッドとしてあらためて7周のレースが行われることになった。

アドバンス勢は再スタート直後こそライバル陣に先行を許すものの、上江洲がすぐさまトップを奪い返し、江澤も上江洲をびたりとマーク。上江洲と江澤は超接近戦を展開するが、最終ラップの逆バンクで江澤が上江洲に先行し、そのまま首位を守り切って3連勝を飾った。総合5位の中村はクラスでは2位表彰台を獲得し、永山も波乱含みのレースを粘り強く走り切り、予選の順位を大きく上回る15位でレースを終えている。



2021年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

インターJ-GP3クラス：予選総合5位/決勝(総合・クラス・NSFチャレンジ)1位

江澤伸哉(えざわ しんや) 15歳

『金曜日に54秒8の自己ベストが出ましたが、翌土曜日の特別スポーツ走行でタイム計測前にクラッシュし、マシンを大破させてしまいました。予選は前日のクラッシュで大破したマシンのチェックもしなければならず、慎重になりすぎてタイムも伸びなかったです。決勝は苦手なスタートで遅れ、S字では小田喜選手と接触するなど、走りがラフ過ぎました。いかにクリーンにパスしてレースをまとめ上げるかということが今後の課題です。また今回は練習で自己ベストを出すことが出来ましたが、課題としていた単独走行でのベストではありませんでした。そういったところも改善すべきポイントです』



インターJ-GP3クラス：予選総合12位/決勝(総合・クラス・NSFチャレンジ)2位

上江洲葵要(うえず あおい) 15歳

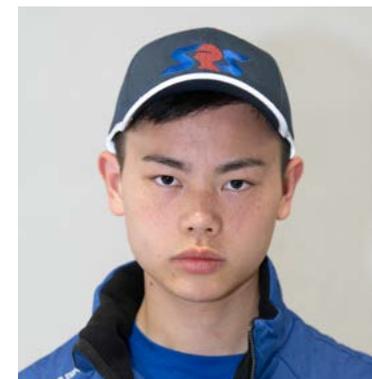
『前回のレース後、自分の何が悪いのかを徹底的に考えました。メンタルや体力、技術面が足りないと考え、「絶対に勝つ」という気持ちを持ってその後の練習に取り組みました。そうすることで自然とタイムは上がり、自信もつきました。今回のレースでも転倒はありませんでしたし、自己ベストも上げられるなど、いい流れを作れたのが良かったです。赤旗後のレースも、結果こそ2位ですが、僕がこの集団を引っ張るという気持ちで自分自身の走りに集中することができました』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合8位/決勝(総合)5位・(クラス)2位・(NSFチャレンジ)3位

中村煌(なかむら こう) 15歳

『決勝のスタートはうまく決まりましたが、後方から来たインターの人たちに先行され、S字で差を詰めてもパスすることが出来ませんでした。なかなか自分のペースが作れず、ショートカットの立ち上がりもまだまだです。赤旗中断後のレースも、中断前と同じような展開になってしまい、悔しかったです。S字は練習では上手く走れるようになりましたが、レースでは焦ってしまい、アクセルを閉じるようなこともありました。落ちついて走れるよう心がけたいです』



ナショナルJ-GP3クラス:予選総合21位/決勝(総合)15位・(クラス)9位・(NSFチャレンジ)8位

永山陽梨(ながやま ひな) 13歳

『予選の転倒の原因は自分の判断ミスです。前方にライダーがいたんですけど、イン側を走って縁石に乗ってしまいました。決勝はスタートが上手く決まり、6台ほどをパスできました。でもその後1台に抜かれて、ついていくことができませんでした。こういったところが自分の弱点だと思います。今回は予選で転倒してしまいましたが、今後はこういったミス無くし、回りの状況をしっかりと見て走れるようになりたいです』



2021年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス：予選総合3位/決勝リタイヤ 小田喜阿門(おだき あもん)13歳

『予選は比較的上手く行きましたが、決勝で転んでしまったのはダメですね。課題としていたS字のスピードが乗せられるようになったのは良かったですが、ショートカットのスピードがまだまだ遅いのが反省点です。決勝では江澤選手が後ろから来ていたのは分かっていたんですが、どこでアタックしてくるのかという予測はできませんでした。そういった予測はもちろんですが、なにより後続に追いつかれないような速さを身に着けないといけません』



岡田忠之 Principal

『今回のレースで一番伸びたと感じたのは上江洲ですね。これまで調子を落としていましたが、トップ争いができるところにまで調子を戻し、赤旗後もトップ争いを繰り広げました。練習でも永山以外は江澤のタイムに接近しています。皆この調子でレベルを上げて行ってもらいたいですね。永山は骨折した足首が完治しておらず、恐怖感があるようです。南コースでの練習で様子を見て今後の対応を考えます。また中村は速さはありますが、強引に抜く癖があり、それが原因でタイムを落としています。走りの組み立て方を身に着けなければいけません』

